

北海道各地から産出する黒曜石
その8おうむちいき
雄武地域

(Oumu Area)

稚内と知床のオホーツク海沿岸中間地点に位置する雄武地域。ここには、中新世中期に噴出した流紋岩質の元稲府(もといねっぶ)溶岩が、元稲府川から音稲府(おといねっぶ)川流域にかけてひろく分布しています。

現地の調査では、音稲府川において、約0.5～1.0cm前後でやや角張っている黒曜石の円礫を採取することができました。これは、上流域に黒曜石の露頭が存在することを示唆しています。ただし、調査時に採取できた黒曜石は数量ともにわずかで、代わりに真珠岩や松脂岩、そして流紋岩中にマレカナイト球として含まれている黒曜石を、他地域より若干多めに採取することができた程度でした。

黒曜石の割れ口は漆黒色を呈し、球顆を含まず良質のものばかりですので、仮に、手頃な大きさの黒曜石を採取できれば、十分石器の材料として利用できると思われます。この地域の黒曜石は、雄武組成グループに分類できますので、雄武周辺の遺跡から出土する黒曜石製の石器を調べれば、雄武産の黒曜石が見つかるかも知れません。

雄武地域に産出する流紋岩質の元稲府溶岩は、道内でも比較的分布範囲の広い岩体です。地質図幅説明書によると、溶結凝灰岩の部分には、3～5mの幅をもったレンズ状の黒曜石が確認(鈴木ほか、1966)されています。しかし、これまでの現地の調査では、実際にそのような露頭は残念ながら確認できませんでした。今回分布調査をした感じでは、流紋岩中に局所的に黒曜石が伴われると考えた方が良さそうであり、黒曜石の溶岩流についても、ここではほとんど存在しないか、若くはあっても小規模なものであると考えられます。いずれにせよ、調査の回数を増やせば、黒曜石の露頭を探し当てることができると思われます。

(学芸員 向井 正幸)



雄武地域における黒曜石。貝殻状断口を示し、良質である。



約0.5～1.0cm前後でやや角張っている黒曜石の礫。音稲府川で採取した。



流紋岩中に黒い粒として見られるマレカナイト球の黒曜石が含まれている。

地学シートHP



地学Sheets

Asahikawa City Museum

旭川市博物館HP

